

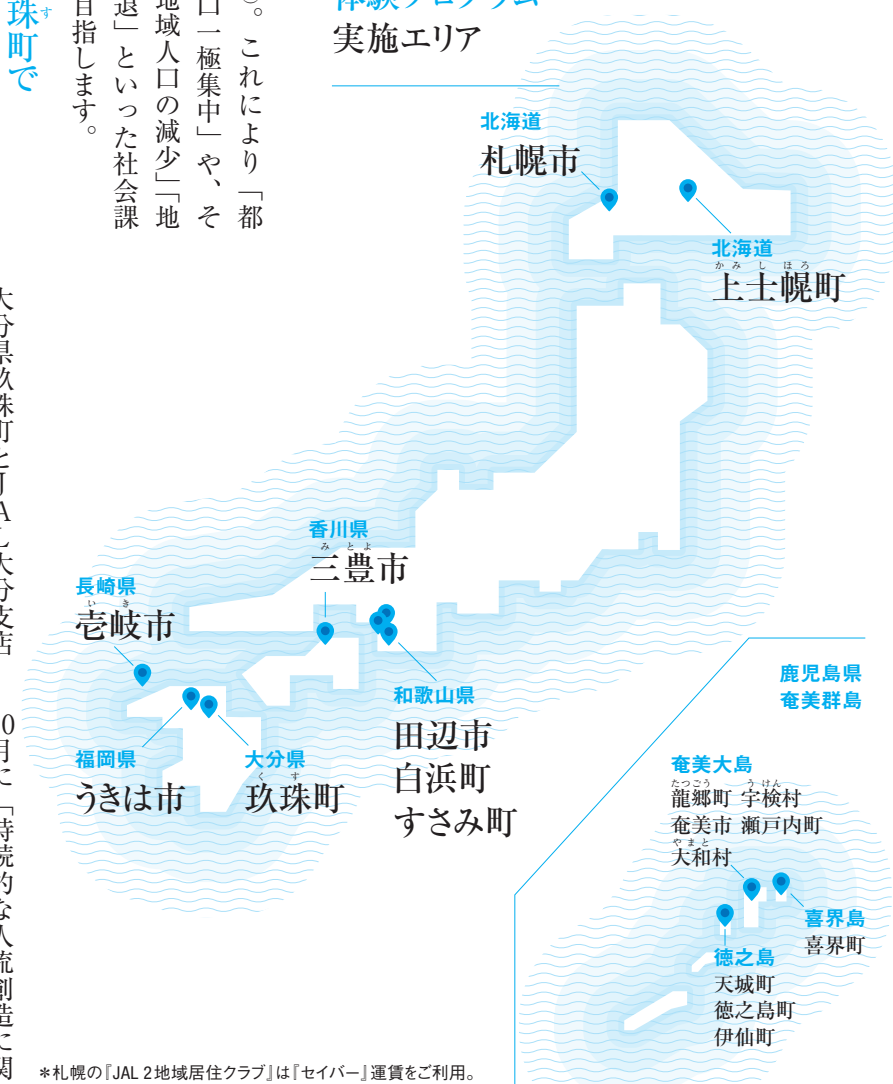
これからの暮らしを考える「二地域居住」という選択

都市圏と地域をつなぐJALの取り組み

今、全国の自治体が直面しているのが都市部への人口流出や少子化による人口減少です。その解決策のひとつとして、「二地域居住」が注目されていることをご存じですか？ 二地域居住とは、都市圏などの主な生活拠点とは別に、特定の地域に第二の生活拠点を持つライフスタイルのこと。ふたつの拠点を往来することで、ワークライフバランスの充実と地域活性化の両方をかなえる新しい暮らし方ともいえます。

飛行機での移動を通じて地域や人との「関係・つながり」をつくるJALグループは、将来的な移住・定住者の拡大を目的に二地域居住体験プログラムを推進しています。JALマイルを参加者へ提供し、特典航空券としてご利用いただくことで、二地域居住生活における移動を

JALが推進する二地域居住体験プログラム実施エリア



*札幌の「JAL 2地域居住クラブ」は「セイバー」運賃をご利用。

サポート[※]。これにより「都市部への人口一極集中」や、それに伴う「地域人口の減少」「地域経済の衰退」といった社会課題の解決を目指します。

大分県玖珠町で二地域居住を推進

北海道から奄美群島まで、今年度18の自治体と共に実施している体験プログラムの中から、

大分県玖珠町とJAL大分支店による事例をご紹介します。二地域居住促進を持続的なものとするため、両者に大分県信用組合を加えた三者は2024年

10月に「持続的な人流創造に関する協力覚書」を締結しました。大分支店長の小田和彦は、「東京一極集中と地域の過疎化。これらふたつの社会課題にJAL



山々と清らかな水に育まれた自然豊かな玖珠町。大分空港から車で約1時間、福岡空港からも1時間15分ほどの距離にある。



1.左から、大分県信用組合の吉野一彦理事長、宿利町長、支店長の小田、JALふるさとアンバサダーの花島良子。2.町の近代化産業遺産、旧豊後森(ぶんごもり)機関庫と転車台。3.三日月の滝公園。



吉田雄紀さん・佑奈さん
東京と玖珠町、夫婦での二地域居住が人生を見つめ直す時間に

夫婦ともに二拠点生活に憧れがあり、地域の豊かな自然や食の魅力に惹かれる中で、大分での暮らしを体験できる貴重な機会だと感じ応募しました。玖珠町の方々の温かさに触れ、日々の生活が豊になる実感がありましたし、都市と地域を行き来する暮らし方を、今後の人生設計の選択肢として本気で考えるきっかけになりました。

グループとしていかに向き合うか。二地域居住がひとつの答えになり得ると思います。新たなライフスタイルの提供の先に、関係人口の拡大、ひいては地方への移住・定住を見据えています」と話します。この施策により、2026年度末までに延べ50人ほどが玖珠町内の「お試し暮らし住宅」に月額3万円で居住することが可能となり、暮らしを通じて自治体職員や地域住民との交流を図る予定です。

二地域居住生活者を積極的に受け入れる玖珠町の宿利政和町長は、「JALと連携し、『二地域居住促進プロジェクト』をスタートしました。温泉やグルメ、美しい田園風景、そしてテレワーク環境も整った、素朴な田舎・玖珠町で、お洒落な二地域生活を満喫していただきたいです」と語り、今後の展開に期待を寄せます。

JALグループはこれからも、二地域居住を多くの方に体験いただくことで、新たな人流の創出と地域経済の活性化に取り組んでまいります。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

2015年9月、全国連加盟国(193カ国)により「持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals: SDGs)」が採択されました。2030年までに、貧困や気候変動、平和的社会などの17の目標を達成すべく、JALグループも社会の課題解決に取り組んでいきます。

